目次

	ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
Ι.	令和4年度地域連携実習の現状と課題 ・・・・・・・	2
Π.	地域連携実習アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
Ш.	学校別事業一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
IV.	活動タイプ別 地域連携実習報告書(抜粋) ・・・・・	8

ごあいさつ

今年度の地域連携実習では、たいへん多くの学生が、大学の中では得られない貴重な教育体験をさせていただきました。はじめに、事業をご提供くださった学校園や教育関係機関のみなさまに心より御礼を申し上げます。

「地域連携実習」は、教員志望の学生たちが地域の学校現場や社会教育の場などで子どもたちとふれ合い、さまざまな教育体験活動をさせていただくものです。教員免許法に定められる「教育実習」とは異なり、卒業要件や教員免許取得に直接かかわるものではありませんが、それぞれの学生が目指す学校種についての理解をさらに明確にする機会であり、また子どもとのかかわり方や学習支援の方法などを学ぶうえで大変重要な機会となっています。

まだまだ改善すべき点は多くありますが、今後も互恵的な関係に基づき、地域に密着した教育活動が円滑に行えるように努力を重ねて参りたいと思っております。どうぞ今後もよりいっそうのご支援とご協力を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

I. 令和5年度地域連携実習の現状と課題

1. 事業提供と参加学生数

令和5年度の地域連携実習の総事業数は122件(前年度:103件)で、事業提供機関は47機関(前年度:42機関)であった。

地域連携実習への参加状況は、次の通りである。FIC 登録学生は503名で、うち教育学部は462名(院を含む)、教育学部以外は40名であった。前年度(総数409名、うち教育学部393名(院を含む)、教育学部以外17名)より増えた。

また、地域連携実習参加学生は延べ712名(実質360名)で、前年度(延べ430名、実質297名)より大幅に増加した。実質参加者の内訳は教育学部が339名(院を含む)、教育学部以外が21名であった。ふるさと実習の参加要件が地域連携実習2回参加になったためである。

なお、上記データにはコロナで急に中止になった事業や参加できなかった学生の数も含まれている。

今年度は、おおむね順調に地域連携実習は行われ、新規の事業も増えた。

- ・中島中学校の寮学生のオンライン学習支援
- ・「立岩ダッシュ村」農業体験学習
- ・道後小中学校区石手地域大山積神社秋祭りのサポート
- ・道後聖母幼稚園のお餅つきの補助
- ・夏休み みんなで宿題!ときどき遊び! (外国の児童生徒の支援) など

提供機関	提供機関数
小学校	16校
中学校	4校
高校	2校
幼稚園	2 園
特別支援学校	1 校
社会教育施設	8機関
教育委員会 PTA 関係	7機関
愛媛大学提供事業	

中学校の地域連携実習への提供が4校と少ないが、部活動指導(市教委提供の地域連携実習) 8校と学習アシスタント(市教委)8校の提供事業を合わせると20校になるので、中学校希望の学生の行ける学校は少なくないようだ。学習アシスタントは教職支援ルーム経由になっている。

2. 地域連携実習の課題について

▲アンケートから毎年挙げられているが、学生の連絡不足や、身だしなみの件、また、大学への要望についての対応を考えていく必要がある。

▲教職支援ルームへの相談として、5月早々に行う事業に参加をしてほしいので(参加したいので)ガイダンスを早く設定してほしいという意見が3件あった。

Ⅱ. 地域連携実習アンケートの結果

教職支援ルームでは、令和6年1月中旬に協力校に対して、「地域連携実習アンケート」を実施した。主な内容は1)活動に参加した学生の様子(良かった点や気になった点)、2)大学への要望、改善策など、3)学生を募集するときの工夫、また、来た学生に配慮してくださっていること等について、4)自由記述、であった。その内容を以下のようにまとめた。

1. 活動に参加した学生の様子

アンケート調査から次のことが分かった。一部を引用して列挙しておく。

【良かった点】

小学校

- ・機転を効かして先々動いてくれたり、人手が欲しいところに快く入ってくれたりと大変助かった。
- ・学年が上がるほど、周りの様子を見て臨機応変に動いてくださる学生が多く、助かった。
- ・運動会と持久走大会、どちらの行事においても、学生の取り組む態度が主体的で、自ら吸収しようと動いていた。特に、児童と積極的に関わろうとする姿が印象的だった。
- ・宿泊ということもあり、人手が必要な分学生に助けてもらい、ありがたかった。子どもた ちへの対応もとてもよかった。
- ・保健室登校児童へ、タブレットの使用方法を教えてくださっただけでなく、何度も来室、 人間関係づくりをしてくれた。児童たちも心を許していた様子も見られた。
- ・事前の説明をしっかり聞いて理解し、細かい活動内容に加えて、手が空いた時に自ら考え 仕事を見つけてプラスアルファの活動をしていた
- ・学生ボランティアの存在が子どもたちに意欲をもたらしており心から感謝している。
- ・持久走大会で安全面の見守りの人手が増えて助かった。
- ・授業に参加できにくい児童を中心についてもらったので、他の児童への対応ができた。
- ・将来の子育て世代となる学生たちに地域にある保育園や子育て支援センターの存在や役割を身近に感じてもらうことができ、大変有意義な機会となった。

中学校

- ・初めはやや消極的で、どう生徒に助言してよいか戸惑っている様子だったが、次第に生徒 に具体的に図を描き示しながらアドバイスをする等、工夫して関わっていた。
- ・授業の内容やこちらの要望をきちんと理解し、進んで動いてくれた。

高校

・積極的に生徒に話しかけ、質問に答えてくれた。

幼稚園

皆さん、意欲を持って応募し、当日も積極的に動いてくれたのでありがたかった。事前の打ち合わせに授業で来られなかった学生さんも連携を取りながら臨機応変に動いてくれた。

教育委員会や教育施設

- ・話し方が丁寧で穏やかな学生が多い。活動にも積極的に取り組む姿勢がみられ、相手のことを知ろうとする姿が見られた。
- ・サポートボランティアとして活動している学生も、継続して当センターでの役割を担って くれている。

【気になった点】

- ・事前連絡の際、18時以降に連絡をもらったが、担当職員も退勤しており、なるべく日中に連絡をもらえると助かる。
- ・教育の現場にふさわしくない身だしなみは大学の方でも指導してほしい。
- ・欠席の連絡がなかった学生がいた。
- ・参加記録簿を持参していない学生が数名いた。

【学生募集するときの工夫】

- ・事前打合せを行うことで、学生が見通しをもって実習に参加できるようにしている。当日 も具体的に業務内容を伝えるように気をつけた。また、学生用の控え室を用意し、荷物の管 理や休憩がとりやすいように気をつけている。
- ・教職に就くにあたってのメリットを説明にいれている。来た学生には、進んで声をかけ、 教職への希望を強くしてもらえるように気を付けた。
- ・授業のことだけでなく、学生の進路についてや中学校生活の流れなどについて参考になれば…といろいろな話をしている。
- ・学生に入ってもらうクラスを固定しなかった。
- ・どんなかかわりを望んでいるのか、具体的に伝えること。持ち物や服装、集合時間·場所など細かく伝えること。
- ・学生を募集するときには、対象の児童の特性等について可能な限り詳しく記した。学生の 学びになるように困ったことはないかを随時尋ねたり、してほしいことをこちらからお願い したりしている。また、コミュニケーションを積極的に取り、素早く情報が共有できるよう にしている。
- ・地域の皆さんと交流がしやすいように対応している。また、終了後の振り返りも、学生自身の自己肯定感や自己有用感が

高まるようにと努力している。

- ・学生が、来てよかった、また来たいと思ってくれるよう、教職員一同感謝の気持ちで迎えている。学生に任せきりではなく、教員から適切なアドバイスや活動の説明ができるようにしたいと思っている。
- ・年間通じての学習支援は、学生の都合のいい時間に来校し活動できるよう設定している。

【大学への要望】

- ・メールのやり取りに関する事前指導があると学生もメールの送り方などの学びがあってよいのでは?
- ・教育実習生には、実習後の地域連携実習に積極的に参加していただきたいため、年度当初 のガイダンスを受けていただきたい。このことを大学側から伝えていただくことが可能なら ばお願いしたい。

以上のアンケート結果を踏まえながら、今後の課題と解決策として、ガイダンスで強調して説明を行うことで、改善していきたい。

Ⅲ. 学校別事業一覧

協力校等	事業名	学生登録数
松山市立三津浜小学校	三津浜商店街を走る校内持久走大会	7
	三津浜小学校 大運動会の補助	8
松山市立北条小学校	4年生が考えた「新スポーツ」の対戦相手	20
	水泳学習での補助指導及びプールサイド監視	0
松山市立味生第二小学校	3年生町探検の補助	2
	2年生町探検の補助	1
	水泳授業の補助	5
	ウォークラリーの補助	5
松山市立味酒小学校	ICTサポート実習(前期)	3
	ICTサポート実習(後期)	3
松山市立和気小学校	授業の補助	6
	遠足の引率補助	2
	校外学習の安全面の見守り(4年生総合的な学習の時間)	0
	新体力テストの外種目の測定の補助と支援	0
	授業の補助(2学期)	5
	校外学習の引率補助	1
	4年生総合的な学習の時間 車いす体験の安全面の見守り	6
	校内持久走大会の見守りと伴走	4
松山市立姫山小学校	令和5年度姫っ子ウォークラリー(のサポート)	12
	授業の補助	3
松山市立東雲小学校	縦割り遠足の時の児童支援	1
	けがにより介助の必要な児童の授業支援	2
松山市立清水小学校	ICTサポート実習	2
	保健室登登校児童の支援(看護科2回生以上対象)	8
	ICTサポート実習(後期)	1
松山市立湯築小学校	日常の児童の見守り	3
	児童の見守り (1年男児)	2
松山市立石井北小学校	養護教諭の補助(看護科学生対象)	5
松山市立石井東小学校	東っこ祭(ひがしっこさい)の補助	30
松山市立福音小学校	授業の補助、運動会の練習補助	4
	授業の補助	6
	プール授業監視補助	0
松山市立素鵞小学校	ICTサポート実習(前期)	1
	ICTサポート実習(後期)	1
松山市立道後小学校	道後っ子マラソン大会(道後公園)	9
	「かえってきた!道小デイキャンプ」の運営補助	4
松山市立雄郡小学校	ICTサポート実習	3
	ICTサポート実習(後期)	1
松山市立垣生中学校	配慮を要する生徒や学習に遅れがちな生徒への支援	3

松山市立東中学校	調理実習の補助(10月)	13
	特別支援クラスの家庭科実習の補助	1
	被服実習の補助(1・2月)	0
	調理実習の補助(11月)	8
	被服実習の補助(12月)	3
	ICTサポート実習(後期)	1
	放課後アシスタント(放課後の質問学習の補助)英語	4
	調理実習の補助(12月5日)	11
	調理実習の補助(12月15日)	8
	被服実習の補助(11月)	5
松野町立松野中学校	森の国 松野町林間学校	8
松山聖陵高等学校	学び直し(数学)のサポート	3
道後聖母幼稚園	アドベントおもちつきの補助	20
えひめ乳児保育園地域子育て支援セ	:ン 子育て支援センターのイベントの補助	5
久米公民館	久米公民館わくわくチャレンジサタデー	16
今治市社会福祉協議会	今治市子どもの学習等支援	3
伊予市役所市民福祉部子育て支援課	令和5年度 ひとり親家庭学習支援事業	3
潮見公民館	潮見公民館 あそびの学校「ハーバリウムを作ろう」編	5
	あそびの学校「種だんごを植えよう」編	5
松山市社会福祉協議会	いきがい交流センターしみず しみずサポートボランティア	4
ボランティアセンター		2
	共に学ぶ~やさしい町 清水~高齢者体験とトークライブ	3
	「共に学ぶ~やさしい町清水~」 福祉体験学習事業 清水小	7
L 松山市総合政策部文化・ことば課	響け!!言霊 第16回"ことばのがっしょう"群読コンクール	5
—————————————————————————————————————	小松地域未来塾(中学校の夏休み課題)	1
愛媛大学提供事業	ふるさと実習後の実習校での活動	4
	応用実習後の実習校での活動	1
	新宮小中学校サマースクール	13
	夏休み みんなで宿題!ときどき遊び!	5
	重度の障害を持つ子どものための訪問カレッジ@愛媛大学	2
	児童クラブ夏休み教室 (えりむ児童クラブ さくらんぼ)	2
	愛媛ブルーランドサマーキャンプ	7
	Minecraft子どもクリエイターズスクール	3
	伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村	8
	新玉小学校・全校遠足での引率補助	22
	道後小中学校区石手地域大山積神社秋祭りのサポート	10
	ジュニアサポート(吉村ゼミ対象)	5
	八幡浜市立白浜小学校130周年記念企画	13
	愛大マインクラフト(対面もしくはリモート)	6
	連携校実習(教職大学院)の提供活動	22
愛媛大学附属中学校	実技テスト(リンゴの皮むき)の補助	8
	青葉写生会の補助	3
	調理実習の補助 (6月)	14
	調理実習の補助(1月・2月)	4

愛媛大学附属小学校	6年生 校外学習 引率補助(6年の教育実習生対象)	10
	社会科「市の様子」の校外学習	7
	校外学習引率補助(市駅周辺見学)	0
	大洲少年自然の家の引率	3
	校外学習引率補助 (5年生の実習生対象)	9
	運動会の補助(3・4回生対象)	5
	総合的な学習の時間における校外学習の補助	3
	総合的な学習の時間における校外学習	3
	集団宿泊活動(レインボーキャンプ)引率補助	14
	校外学習引率補助(みかん畑見学)	5
	国語科「モチモチの木」のための校外学習	3
	校外学習引率補助(教育実習生5月、5花、5星)	8
	1年生校外学習(城山公園)の引率補助	19
	校外学習引率補助(みかん畑見学)	9
	とべ動物園 校外学習引率補助	6
	校外学習引率補助	6
愛媛大学附属幼稚園	愛媛大学教育学部附属幼稚園運動会の補助	15
	幼稚園の行事補助	6
愛媛大学附属特別支援学校	運動会での児童生徒の活動支援	10
愛媛大学附属高等学校	吹奏楽部の指導補助	5
愛媛県教育委員会特別支援教育課	第 20 回 愛顔 (えがお) のえひめ特別支援学校技能検定	10
	第19回 愛顔のえひめ特別支援学校技能検定	0
愛媛県教育委員会社会教育課	令和5年度「御五神島・無人島体験事業」	8
東温市教育委員会生涯学習課	ジュニア体験塾(滑川キャンプ)の補助	10
	わんぱく広場「滑川キャンプ」のサポート	5
松山市小中学校PTA連合会	キッズジョブ松山2023の補助	31
松山市教育委員会保健体育課	部活動の外部指導員(内宮中学校剣道部)	1
	部活動の外部指導員(東中学校女子バスケットボール部)	2
	部活動の外部指導員(西中学校陸上部)	1
	部活動の外部指導員(道後中学校陸上部)	1
	部活動の外部指導員(南中学校男子卓球部)	0
	部活動の外部指導員(小野中学校男子バレーボール部)	1
	部活動の外部指導員 (湯山中学校女子ソフトテニス部)	1
	部活動の外部指導員(北中学校女子ソフトテニス部)	0
松山市教育委員会地域学習振興課	放課後子ども教室(石井小学校校区子ども教室)	2
	坂本放課後子ども教室きらきらクラブ	2
	「立岩ダッシュ村」農業体験学習	10
松山市教育委員会学校教育課	中島中への大学生によるオンライン学習支援(第2回)	3
	中島中への大学生によるオンライン学習支援(第1回)	3
合計		712

Ⅳ. 活動タイプ別 地域連携実習報告書(抜粋)

1. 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

2. 小学校における継続型学習支援

水泳授業の補助

3. 小学校における継続型活動補助

養護教諭の補助

4. 小学校における継続型活動補助

授業の補助

5. 小学校における短期型活動補助

大運動会の補助

6. 小学校における短期型活動補助

「かえってきた!道小デイキャンプ」の運営補助

7. 中学校における短期型活動補助

調理実習の補助(11月)

8. 中学校の課外活動における指導支援

部活動の外部指導員

9. 特別支援学校における活動補助

運動会での児童生徒の活動支援

10. 幼稚園における活動補助

運動会の補助

11. 幼稚園における活動補助

アドベントおもちつきの補助

12. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

令和5年度「御五神島·無人島体験事業」

13. 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第 20 回 愛顔 (えがお) のえひめ特別支援学校技能検定

1 学生企画型

久米公民館わくわくチャレンジサタデー

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)3回生

 実施記録
 久米小学校
 令和5年6月17日

始まりの会(自己紹介)

わくわくゲーム(好きなものバスケット)

授業(特別活動 "パワーアップわくチャレ 2023")

全体遊び(ブラインドリレー)

終わりの会

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1児童との出会いを大切にする

評価:5

今年度初めてのわくチャレで授業者ということもあり、ドキドキしたが、積極的に児童とコミュニケーションをとることができた。特に生活班の6班の児童とは、自己紹介の時間にお互いのことを伝え合い、少しではあるが児童の好きなことや得意なことを知ることができた。

2 準備と練習の成果を発揮し、授業を盛り上げる

評価:5

直前まで準備、練習してきた成果が発揮でき、授業が終了時は「やりきった!」という 達成感や満足感と同時に「こうすればよかった」という課題がたくさん感じられた。

初回のわくチャレということで私たち授業者は特別活動を通して、人間関係の構築と合意形成を図ることを大きな目標としていた。名札づくりをはじめ、挑戦状、目標決めなど活動が多くなってしまい、活動につながりがなく内容が多いという意見もあったが、子どもたちは活動を楽しんでくれていたし、自分たちの目指していたものを実現できたように感じる。授業で最も大切にしたい部分は、常に明確にしておきたいと思う。授業内の合意形成では、様々な意見が飛び交う中、子どもたち一人一人の意見を大切にしつつ、クラス1つの意見へとまとめていくことは本当に難しいと実感した。本番は、積極的な子どもたちに助けられて「協力」という1つの目標に収束させることができたと思う。協議会で先生方からお聞きした学級経営の方法を参考にし、現場に出た時に私なりの学級経営ができるように今回の経験を大切にするとともに今後も磨きをかけていきたい。準備は大変だったが、やってきて良かったと思える素敵な経験だった。授業をうけてくれた児童はもちろん、一緒に試行錯誤し授業を作り上げた仲間や授業中にサポートしてくれた方々に感謝している。

3児童の意見をよく聞く

評価:4

授業では私たちが主導ではなく、子どもたちに考えさせて行動させるということを大切にしていた。合意形成の場面では意識できていたと思うが、全体を通して見ると時間の関係もあり、複数の児童の意見を聞くことはなかなかできず、十分ではなかったと感じる。 児童の意見をもとに授業を展開していけるようになりたい。

2 小学校における継続型学習支援

水泳授業の補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)3回生

実施記録 松山市立味生第二小学校 令和 5 年 6 月 22 日・6 月 23 日

3年生と5年生の水泳の補助

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 水泳授業での子どもの実態を把握し、どのような指導・支援が必要かを実践的に学ぶ。 3点

3年生は水に顔を付けられない子から 25m 泳げる子までいて、個々の泳力に大きな差がある。そのため、泳力に応じてチーム分けをして、効率よく授業を行うことが大切であると感じた。水に顔を付けられない子に対してどのように補助すれば良いのか分からず、自身の今後の課題であると思った。5年生は比較的水に慣れている子が多かったが、1人だけ水に顔を付けられない子がいて、泣いてしまう場面もあった。その子に対しての声掛けやできるようになる方法を考えたが、なかなか難しいと思った。コロナ禍で水泳をあまり経験しておらず、泳げない子が多くなっているとおっしゃっていたので、今度の補助では、まずはどうしたら水に慣れることができるのかを考えて実践してみようと思った。

2. 安全かつ楽しく授業を行うための授業の進め方や工夫を学ぶ。 3点

バディの確認や、先生方の補助の仕方を見て学ぶことができた。5年生は比較的静かに話を聞いたり落ち着いて行動ができるが、3年生は静かになるまでに時間がかかったり、 プールサイドを走る子がいた。安全指導面でも積極的に声掛けをしていきたいと思った。

3. 児童の身に危険が起こるようなことがないか周りをみて行動し、臨機応変に対応できる力を身に付ける。 4点

プール全体を見回し、危険がないかを確認しながら行動することができた。また、泳ぐのが苦手な子のそばについて補助をするように意識した。危険が起きないようにバディを作ったり、笛の合図を決めてその合図に従わせるようにしたり、いきなりプールに入るのではなく、少しずつ体を冷水に慣れさせたりと、様々な配慮が必要だということが分かった。

3 小学校における継続型学習支援

養護教諭の補助

医学部看護科 4 回生

実施記録 松山市立石井北小学校 令和 5 年 6 月 21 日 13:00 から 16:00

- ・1 年生、4 年生の健康診断(歯科検診)の補助
- ・健康診断の結果のデータ入力や書類作成
- ・来室した児童生徒の対応や処置

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 保健室に来室した子どもたちへの声かけや処置を観察する。【評価4】

小学校では様々な学年の児童がけがや頭痛、腹痛などの内科的な疾患を訴えて保健室に来室していました。始めはどのように声かけを行い、発生状況や症状などについて問診したらいいのかを思うことが多くありました。保健室に来室した児童生徒に対する養護教諭の声かけや処置などの関わりを観察したり、養護概説で学んだ「始めは児童の痛みに共感し、安心させて処置をする」という学びを活かしたりしたことで児童に寄り添った声かけや処置を考えることができました。

2. 健康観察の集計や健康診断の準備など養護教諭の仕事内容を理解する【評価: 4】

健康診断の結果のデータ入力や書類作成を行いました。健康診断の結果を 21 日以内に 通知しなければならず、健康診断の結果や保護者に向けての受診の勧めの書類作成を迅 速に行う必要があると学びました。健康診断の結果のデータ入力では児童生徒の健康状 態のデータとなるものであり、とても重要な仕事であると思いました。ただ入力するので はなくクラスにおける健康課題や健康状態の把握を一緒にすることで、学年における健 康課題の早期発見ができ、保健指導や健康教育に結びつけることが出来ると学びました。

3. 子どもの発達段階に合わせた健康診断や保健指導について考える。【評価: 4】

1年生、4年生の歯科検診の補助を行いました。歯科検診の際は事前に行った健康調査票の情報を学校歯科医に伝えた上で検診を行うことで健康診断を円滑に行うことができることを改めて実感しました。1年生の歯科検診では、後頭部を後ろにして大きな口を開けることが難しい児童に対して後頭部を支えて口を開けやすくしたり、「口をあーと大きくあけてね」と座る際に伝えたりするなど児童の発達段階に合わせた健康診断の補助を実施することができました。

4 小学校における継続型学習支援

授業の補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)4回生

実施記録 松山市立和気小学校 令和5年5月・6月

【1 年生】・教材の丸つけ ・活動が進んでいない子どもへの声掛け、アドバイス ・給食の量の調節(多い、少ない等の声掛け) ・掃除の基本の教授(雑巾の絞り方、拭き方) 【出海(支援学級)】 ◎声をかけながら、一緒に活動をする(習字、折り紙、ゆで卵づくり、畑づくり(さつまいもを育てるために畑を耕す)等)

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 日々の関わりの中で個々の特性を把握し、一人ひとりの児童に合った支援の方法を見つける。

評価:【4】

学習支援の回数を重ね、子どもたちと触れ合う中で、おおよそ一人ひとりの個性が見えてきた。自分なりに、試行錯誤をしながら、その子どもにあった声掛けや環境づくりに努めたが、まだどのように支援をすることで主体的に学習に取り組むことができるのか、支援方法が見つけられていない児童もいるという点から、このような評価となった。

今後は、1~4限目までの学習支援をさせていただくことで、子どもたちの学習の機会に触れる時間を増やし、一人ひとりの児童理解に努めたい。また、先生方の支援の方法をよく拝見し、積極的に学びを得たいと考えている。

2. 支援学級の児童との関わりを通して、一人ひとりの輝くもの(才能)を見つける。 評価:【4】

3人の児童と学習を重ねる中で、相手を思いやることのできる姿や丁寧に綺麗な字を書く姿、こちらにたくさん笑顔で話しかけてくれる姿など、一人ひとりの素晴らしい特性に触れることができた。しかしながら、まだ今は見つけることの出来ていない 3 人の才能がまだまだたくさんあり、その点は長期的に触れ合うことで見つけられるという点から、このような評価となった。

通常学級とは異なる雰囲気の中で、一人ひとりに深く関わり、一人ひとりの特性を大切にした温かな支援に触れることができ、大きな学びとなった。

3. 発達障がいの児童への支援の方法と学級経営の工夫を学ぶ。

評価:【3】

学習への理解のスピードがゆっくりとした児童への支援としては、自分なりに考えながら関わることができた。しかし、まだどのように声をかけることで、児童の学習への集中が図れるのか、意欲的に取り組むことができるのか、支援方法をみつけられていない児童もいる。また、学級経営の方法については、自ら積極的に先生方にお聞きすることができなかったため、このような評価となった。

今後は、積極的に先生方へ質問をしながら、学級経営の工夫や児童とのかかわり方の工 夫を伺い、学びを深め、自らの児童との関わりに生かしていきたい。

5 小学校における短期型活動補助

大運動会の補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)1回生

実施記録 松山市立三津浜小学校 令和5年5月27日(土)

児童テントでの児童への声掛け

運動会終了後の片づけ

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 行事の時の先生方の動きを学ぶ(4点)

先生方の動きで印象に残ったことは2つある。1つ目は先生方も児童と同じくらい運動会を楽しんでいたことだ。応援の振り付けを一緒にやったり、すれ違った児童に手を振ったりと先生方が楽しんでいた。先生方が全力で楽しんでいると児童も全力で楽しめるのだろうと思った。2つ目は保護者の方との距離が近いということだ。運動会後の片づけでは多くの保護者の方も協力してくださった。片付けの時、ただ淡々と作業をするのではなく先生方と保護者の方が楽しそうに話しながら片づけをされている姿を見て、このような行事ごとの時にしっかり保護者の方とのコミュニケーションをとることで、信頼関係を作ることが大切なのだろうと思った。

2. 子供たちと積極的にコミュニケーションをとる(3点)

今回は、児童テントで応援をしたり、水分補給やトイレの呼びかけをした。低学年の児童とは、たくさんコミュニケーションをとることができた。特に、水分補給の声掛けや、トイレの声掛けは積極的にできた。また、けがをした児童を救護テントまで連れていくことができた。運動会の後半で集中力が切れ、児童が応援をしなくなった時も「あとちょっと頑張ろう」と声掛けをすることができた。しかし、高学年の児童とはどのように接していけばよいかわからず、あまり話しかけることができなかった。高学年はどこまでの補助が必要なのかがわからなかった。また、1人の児童がしゃがんでしんどそうにしているのを見逃してしまうこともあった。今回の反省を生かし、高学年とどのように接すればよいのかということ、より視野を広く持って周りに気を向けるという2つのことをこれから学んでいきたい。

3. 手伝えることはないか常に考えて活動する(4点)

片付けなどを自分から仕事を見つけてすることができた。しかし、片づけてはいけないものも片づけてしまったり、場所を間違えそうになったりと指示が出ていないことを積極的にすると失敗してしまうこともあった。これからの実習ではそのようなことがないように、確認を取って行動しようと思う。

6 小学校における短期型活動補助

「かえってきた!道小デイキャンプ」の運営補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)3回生

実施記録 松山市立道後小学校 令和 5 年 7 月 22 日

道後小学校デイキャンプにおいてイベントでの補助や子どもたちの監視、誘導などを 行なった。

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

①PTA や保護者の方々、地域の方々との連携について学び、積極的に関わり合いながら運営に携わる。

5点

今回のイベントはおやじの会(保護者の集まり)の企画、運営によって行われたが、たくさんの保護者の方々、学校の先生方、地域の消防団、警備の方々の連携と協力によって成功でき、地域のつながりの大切さを学ぶことができた。私はたくさんの人に明るい挨拶をすること、指示を出されたらすぐに動くことなどを意識して行動した。高学年は保護者が来ていなかったため、低学年の保護者の方々に自分の子ども以外の子どもたちの様子も見てあげるようにアナウンスしており、保護者や地域のつながりによって子どもたちの安全が守られていることに気が付いた。

②コロナ禍でイベントを経験できていない子どもたちにとって楽しんだり、たくさんの人と関わったりする機会になるように、周りの方々と協力しながらサポートする。 5点

玉入れや〇×クイズ、ランタンづくり、お化け屋敷など様々なイベントが行われた。 私はイベントの補助をするだけでなく、後ろのほうで退屈そうにしている子どもたち と遊んだり、泣いている子に声をかけたりと全体を見ながら行動することを意識した。 休憩時間にも積極的に子どもたちと関わろうと、一緒にバレーをしたり一緒にかき氷 を食べたりして交流を深めることができた。また、お化け屋敷では他の学生と考えな がら「こうしたらもっと面白いのではないか」という提案をしながら、本番は大成功 させることができた。

③子どもたちが楽しめるイベントの企画や運営の工夫、安全面の指導について学びながらサポートする。

4点

低学年の子どもたちは保護者同伴にしたり、こまめに水分補給の呼びかけをしたり、 ミストや扇風機をたくさん活用したりと、安全対策及び熱中症対策が行われていた。 また、無料でかき氷やおにぎり、お茶を配布するなど健康管理にも十分注意すること が必要だと学んだ。私もしゃがみこんでいる子に「体調悪い?」「どうした?」などと 声をかけることができた。また、お化け屋敷の際に、低学年の子に対しては脅かすレ ベルを下げるなどの配慮も行った。イベントの運営には事前の念入りな準備が必要で あることも学んだ。

7 中学校における短期型活動補助

調理実習の補助(11月)

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)4回生

実施記録 松山市立東中学校 令和 5 年 11 月 8 日 2~4 時間目

中学生の調理実習の補助を行った。

蒸し料理としてしゅうまい作りに取り組む中で、包丁や火が安全に使えているか注視し必要に応じて声掛けを行ったり、スムーズに調理実習が行えるよう材料の取り分けや分配を行った。

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 生徒とのコミュニケーションを通して、中学生という年齢の発達段階や適切な関わり方を学ぶ(4点)

生徒のほとんどが調理実習に意欲的に参加していた。しかしその中でも日ごろ過程で料理をする機会がある生徒とそうでない生徒の間で進度に大きな差が生まれていたように感じた。中学生は自分でできることがほとんどであると思っていたが、補助が必要な部分が想像よりも多く、教師の補助が不可欠であると考えた。また、コミュニケーションをとる中でこちら側からの声掛けに反応がない生徒や、班活動で班員と言葉を交わすことが難しそうな生徒が見受けられた。そのような生徒とは無理にコミュニケーションを共有するのではなく、必要最低限のコミュニケーションに抑え見守ることも有効なのではないかと思った。

2. 調理実習における教師の介入の程度を学ぶ(5点)

限られた時間内で調理から片付けまでを完了させなければならない調理実習は、教師の事前準備や取り組み開始前の説明が非常に大きな役割を持つことが分かった。今回の調理実習では材料の分配や器具の準備を教師が事前に行っていた。また、ホワイトボードに調理実習の流れを図で表し、時間配分を生徒が把握しやすいような工夫がされていた。作業が遅れている班には教師が積極的に介入し、随時指示を出していた。時間内に調理実習を終わらせるため、教師は多くの場面で生徒の取り組みを補助していた。

3. 調理実習が安全に進んでいるかどうか、全体に目を配り必要に応じて補助をする(4点)

包丁や火の取り扱いに特に気を付けて補助を行った。まな板が斜めになっていたり包丁を持ったまま歩こうとしたりと、危険だと判断した動きに対しては声掛けを徹底して行い、正しい包丁の取り扱い方を指導することができた。蒸し器の蒸気についての注意については、複数の班が同時に蒸し器を使うことがあったため、全ての班に声掛けをすることができず、安全管理を確実に行うことができなかった。

8 中学校の課外活動における指導支援

部活動の外部指導員

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)2回生

実施記録 松山市立小野中学校 令和5年8月8日

8:30~11:30 部活動の指導

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. ローテーションを実際に生徒たちにわかりやすく指導する。

5点:自分の作ってきた資料を用いて子どもたちにわかりやすく説明することができた。また、顧問の先生が説明される中で、ロイロノートを上手に活用されており、自分のWordスキルの向上はもちろん、生徒にどのように伝えるかについて大変参考になった。私もロイロノートを有効活用できるように努めていきたい。

2. ローテーションの確認の際に素早く効率よく指導する。

5点:ローテーションの規則について指導できた。例えば、同じウイングスパイカ―やミドルブロッカーは対角にいるや、リベロは後衛のミドルブロッカーと常に入れ替わるだけなど、ローテーションを覚えるコツを教えることができた。これからの練習で今回のローテーションは随時確認していこうと思う。

2. 顧問の先生との情報共有をしっかりとする。

3点:以前から顧問の先生とは情報共有を綿密に行っていたが、私の意見が最後までまとまっておらず、最後には先生と相談もせずに、とある生徒のポジションを入れ替えてしまった。入れ替えた後に先生に事情を話すと納得してもらえたため良かったが、こういったことは事前に私の方から共有しておくべきだったなと思う。これからは、自分の意見をまとめ話し忘れがないか確認していこうと思う。

9 特別支援学校における活動補助

運動会での児童生徒の活動支援

教育学部学校教育教員養成課程(特別支援教育コース)4回生

実施記録 愛媛大学附属特別支援学校 令和5年5月21日(日)

競技で使用する道具の準備・片付け、児童・生徒の誘導。

児童・生徒への競技の応援、休憩の声かけ。

運動会終了後の競技道具やテントの片付け。

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 先生方の支援を観察、質問する。

評価 4

教育実習で関わった生徒の行動を観察できた。先生方から聞いていた実態が、教育実習中は理解で来ていない部分があったが、実際に生徒の行動にあらわれていて、実感することが出来た。行事で、生徒の気持ちが高ぶっている様子があり、副担任の先生を中心に、何人かの先生で協力して対応していることと、その様子に気を取られることなく、自学級の指導にあたっている先生の姿が印象的で、連携した支援体制を感じた。運動会中は忙しさもあり、直接、先生方と支援についての話をすることは出来なかったが、実習でお世話になった先生から、生徒の様子についてお話を聞けた。

2. 実際に、支援を真似して行動する。

評価 4

教育実習で主に関わった生徒は卒業しており、はじめて関わる児童生徒ばかりだった。はじめは、どう関わればよいか分からなかったが、「一緒に応援しよう」と声をかけ、沢山の児童と生徒と一緒に運動会を盛り上げることが出来た。応援の際は、「かっこいいね」「頑張ってるね」と声をかけ、適宜、水分補給などの声かけをした。また、片付けでは、テントの片づけをしようとしてくれている生徒がおり、先生が危ないから離れていてと声をかけていた。そこで、生徒に「手伝おうとしてくれてありがとう」と伝え、他の片づけを提案した。私自身、初めての関わりだったので、先生方の声かけから、生徒と共に行動することを意識して行動できた。

3. 支援方法について、検討する。

評価 4

運動会などの行事では、いつもと違う音がしたり、人が沢山いたり、子どもたちの気持ちが高ぶることがある。その際に、感情表現の仕方が分からず、誰かを傷つけてしまう生徒もいる。感情を押さえつけたり、誰かを傷付けてしまう状況をつくるのではなく、落ち着かせる環境をつくったり、他の生徒との距離をとったりするといった支援が有効的に働いていた。全ての場合で同じ対応が求められるわけではないが、生徒の行動に対して支援するのではなく、その背景や思いに寄り添った支援が重要だと考えた。今後も、子どもたちへ理解を深められるように、支援方法を検討していきたい。

10 幼稚園における活動補助

運動会の補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)1回生

実施記録 愛媛大学付附属幼稚園 令和 5 年 10 月 14 日(土)

運動会の競技で使用するものの運搬、幼児が座る椅子やテントの運搬、幼児の安全確認、 **ふれあいを実施しての省察(ふりかえり**)

1. 幼児の予想外の行動や特性などを学び、臨機応変に対応できるよう常に考えて行動する。【評価3】

普段幼児と関わることがないので、幼児の何気ない質問にすぐに答えることができませんでした。話しかけられたとき、どう答えたら幼児に伝わりやすいかを考えたらすぐに答えられず、答えたけれどそれが幼児にとって分かる言葉なのか分かりませんでした。私は、教師ができる限り、幼児に伝わる言葉を幼児の反応を見ながら伝えているのを見て、子供との会話の仕方を学ばなければならないと感じました。競技中、負けたことが悔しくて泣き出してしまう子供がいたり、待っている子供がゴールテープの近くに走って行ってしまったりと予想していなかった子供の行動がありました。こういったときに、励ましたり、事前に危ないことを伝えとかなければならないと考えました。

2. 教師の幼児との関わり方を理解する。【評価4】

勝ち負けのある競技が多かったですが、勝った組を褒めるだけでなく、負けた組にどちらのチームも頑張った、負けた組は勝った組に拍手して偉いね、などやったことを褒めてあげているのがとても印象に残りました。私は競技をしている子供に対し、教師が実際にほめているように声掛けをしようと試みました。子供たちにその声が届いたかわからなかったけれど、子供が全力で取り組んでいる姿を見て教師も一丸となって取り組まなければ、行事は成立しないと感じました。幼児の授業で、褒めることは子供にとって、次も頑張ろうという気力にもなり大事なことだと学んだので、実際にこの運動会で教師の褒め方を見ることが出来てよかったです。授業で学ぶことも多いですが、教師を間近で見て得るものも多かったので、今回学んだことを次の子供と関わる機会に活かしたいと考えました。

11 幼稚園における活動補助

アドベントおもちつきの補助

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)1回生

実施記録 道後聖母幼稚園 令和 5 年 12 月 23 日

幼稚園の先生方のサポートとおもちつきをメインに活動した また園児や保護者の方々とも交流しながら一緒におもちつきを実施した

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1、おもちつきの補助を通じて園児たちとたくさんふれあい学ぶ(4点)

アドベントおもちつきを通してたくさん児童と触れ合うことができました。 園児の中には活動的な子もいれば消極的な子もおり園児の性格に合わせて声掛けや関わり 方を変えていく必要があることを学びました。最初はお餅をつくことに怯えていた子もい ましたが、一緒に杵を持ってあげて一緒についてあげると楽しくなっていき次第に一人で もつけるようになっていました。園児の成長は私が思っていたよりもずっと早く、後半に なっていくに連れて、おもちつきの要領を得てスムーズにつけるようになっていました。

2、地域の方や保護者の方との交流を自ら増やし経験値を貯める(3点)

保護者の方とも一緒にお餅をつくことがありましたが、うまくコミュニケーションをとることができずとても静かな空間にしてしまいました。保護者のかたとのコミュニケーションは絶対に求められる力なので、もしまた機会があれば円滑に話ができる術を身につけたいと思いました。交流を自ら増やしていくことで児童の些細な問題にも的確に連携をとって解決していくことができるのではないかと考えました。今回保護者の方を相手にコミュニケーションはうまくとれませんでしたが先生方からは貴重なお話を聞くことができたので良い機会だったと感じました。

3、指示を的確に遂行し自ら考え積極的に行動できるようにする(4点)

指示は的確に遂行することができましたが、自分が行なっていることに集中しすぎて、指示を聞き逃してしまったこともあったのでそこは今後注意していきたい思いました。先生方の行動から自分ができることは積極的に声をかけて変わってもらうことができたのでそこは次の実習でも生かしていきたいと感じました。また、自分が今まで参加したおもちつき大会の経験も生かして参加し、知識を役に立たせることができたので今回の実習から学んだことも次に活かせるようにしっかり省察したいです。

令和5年度「御五神島・無人島体験事業」

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)2回生

実施記録 大洲青少年交流の家、下灘公民館、御五神島 令和5年7月30日~8月8日

1日目~2日目:子供達がタープとテントの張り方や火の起こし方などを学んだ。その支援や保護者誘導に加え、運営の様子を記録した。

3日目~7日目:無人島での生活をした。荷物運搬や食事作り、つり、シュノーケリング、自給自足など。台風の影響により離島が早まった。

8日目~10日目:大洲での生活。キャンドルサービス、料理コンテスト、閉会式など。

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 記録係としての自分の役割を全うし、周囲の状況をよく見て主体的に行動する 他人に言われてから動くのではなく、自ら仕事やするべきことを見つけて行動する。記録係 としての仕事はもちろん、お手伝いに入ったり他の業務の支援にも取り組みたい。【4点】

記録係としての役割を果たすことができた。島では子供達の生き生きとした様子を間近に見ることができた。荷物の運搬や指導班のリーダーやサブリーダーのサポートなど、自分以外の役割の仕事にも関わらせていただき、充実したものとなった。自分自身も無人島でつりをしたり海に入ったりと日常ではなかなかできないような経験をさせていただき、有意義な 10 日間だった。

2. 現職の先生方が、無人島という特殊な場において何に気をつけているのか、注意点や指導方法を学ぶ。

9 泊 10 日を共に過ごす上で、トラブルがあった際どう対処するのか、指導としてどんな点に気をつけているのかを、実際に現職の先生方のやり方に触れて学ぶ。 【5 点】

無人島内では子供同士の喧嘩やトラブルもあった。現職の先生方がトラブル時どのように考えるのか、喧嘩があった時先生はどうするのかを終始間近に見ることができとても良い経験になった。夜のミーティング時には指導班より全体に向けて、班ごとの情報共有をしており、教員同士でのコミュニケーションや情報の伝達がいかに大事かを身をもって実感することができた。注意の仕方や子供との接し方は、もちろん先生方によってバラバラであったが、たくさんの先生方が参加されていた為様々な方向から学びを得ることができた。

3. 貴重な体験事業に運営班として参加させていただけていることに感謝し、子供達と積極的に関わりに行く。

長い期間子供達と共同生活を過ごすことのできる貴重な機会であることを理解し、自ら積極的に関わりにいき、子どもとの関わり方を身につける。 【5点】

記録係として写真を撮るため、運営班ではあったが班の子供達と話す機会も多く、10日間を通してとても仲良くなることができた。最初は緊張して大人しかった子も、最終的には自然と話すことができるようになっていて、子供達の普段の学校生活など様々な話を聞けて楽しかった。また、最終的には自分から行動していたり、他者を思いやって行動している様子を見ることができて、子供の大きな成長も身近に感じることができた。

13 社会教育施設等での活動支援や活動補助

第 20 回 愛顔 (えがお) のえひめ特別支援学校技能検定

教育学部学校教育教員養成課程(初等教育コース)2回生

実施記録 愛媛県生涯学習センター 令和6年1月20日

運搬・陳列の検定で審査員の方が手書きした評価表をパソコンに入力する。

ふれあいを実施しての省察(ふりかえり)

1. 特別支援学校に通う生徒の実態を知る。…4点

評価理由

検定を観察することで、障害を持っている生徒が運搬・陳列を丁寧に、一生懸命取り組んでいることを観察することができたから。ミスをしてもあきらめずに最後までやりきっている姿、大きな声でお客様対応を行っている姿はとても尊敬でき、私もさまざまなことに最後まで頑張ろうと思えた。また、今日の検定までの日々の努力が感じられたため、このような評価とした。

2. 検定を受けている生徒へのかかわり方を学ぶ。…4点

評価理由

引率の先生方は、生徒が動きを確認する際に、ゆっくりと指示を出していたり、生徒からの質問に簡潔に答えているところを観察することができたからだ。特に、1 文を短く、主語と述語をわかりやすくして話しているところが印象に残った。また、実際に特別支援学校で働いている先生方とお話をした際に、教育現場の実態やかかわり方のポイントを聞くことができ、将来特別支援学校で働く自分をイメージすることができたので、このような評価とした。

3. 自分の仕事を最後まで丁寧に行う。…5点

評価理由

運搬・陳列の検定で審査員の方が手書きした評価表をパソコンに入力するという役割であったが、最後までしっかりとやりきることができたからだ。午前中は一緒に作業していた方と協力し、1つ1つ丁寧に作業することができた。午後は、1人で行ったがミスがないかしっかりと確認し、最後までやりきることができた。他にも、担当の先生としっかりと連絡を取りながら丁寧に作業ができたと感じたためこのような評価とした。